創造力とコミュニティ研究会19
祈りの場をひらく

2023年の始まり。私たちに社会的距離を余儀なくさせていたパンデミックとの共存の道筋が少しずつ見えてきました。しかし、この3年間は人と人とのつながりを断ち切り、これからその「撚り」を戻す作業に私たちは入っていきます。とはいえ、社会的距離を突き付けられる中、そのつながりを断固として守り続けてきた人々は私たちのまわりに大勢います。今回お呼びするのは、理工学部で教鞭をとられる小菅隼人さん。人々の心のよりどころとなっていた祈りの場である教会が、その門戸を閉ざさざるを得なくなった時、小菅さんは自宅の門戸を開きました。その理由は何だったのか。祈りの場の意味はなんなのか。祈りの場をひらくことで見えてきた新しいコミュニティの姿は何なのか。お話をうかがいながら、共に考えてみたいと思います。

- **話題提供者：小菅隼人さん（慶應義塾大学理工学部教授）**

- **日時：2023年3月14日（火）18:30 ～20:00（予定）**
- **場所：居場所「カドベヤ」**

  横浜市中区石川町5丁目209－3　1階

  https://ameblo.jp/kadobeya2010/

- **参加費無料**
- **参加ご希望の方は、慶應義塾大学法学部・横山千晶（chacky@keio.jp）までご連絡ください。なお、コロナウイルスの感染症予防のために、先着10名に限らせていただきます。**

お越しの時は、マスク着用、入室前の検温、手指の消毒にご協力ください。体調不良の際は、申し訳ございませんが、参加をお控えください。

主催　居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
慶應義塾大学教養研究センター